



監修 ● 小林皮膚科クリニック 院長 小林 照明 先生

お問い合わせ

尋常性  
乾癬

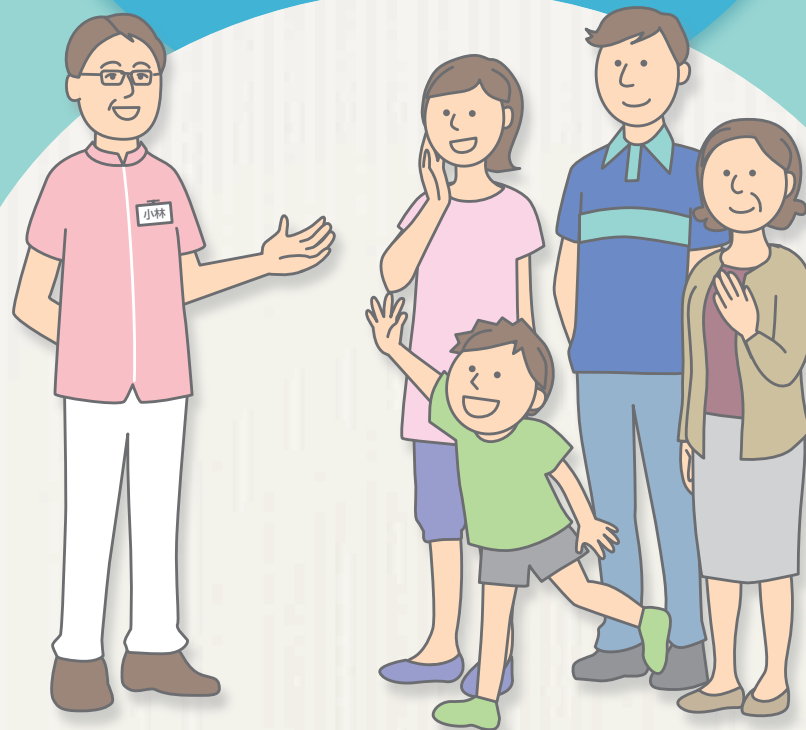
アトピー性  
皮膚炎

尋常性  
白斑

掌蹠  
膿疱症

などの治療に

# 光線療法 〈ナローバンドUVB療法〉

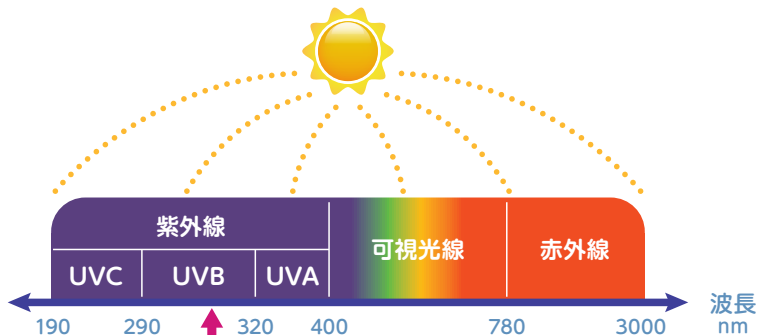


当院では、ダブリンシリーズを導入してナローバンドUVB療法を行っています。

# 光線療法 〈ナローバンドUVB療法〉とは?

光線療法〈ナローバンドUVB療法〉は、太陽光に含まれる紫外線 (UVA・UVB・UVC) のうち、中波長紫外線の中から有害な波長を取り除き、治療効果の高い、非常に幅の狭い範囲 (ナローバンド) の波長域311nm (ナノメートル) を用いた、副作用の少ない安全な光線療法です。

また、これまで飲み薬や塗り薬ではなかなか良い効果が得られなかった患者さんでも、紫外線治療の併用によって相乗的に改善していくことが可能です。



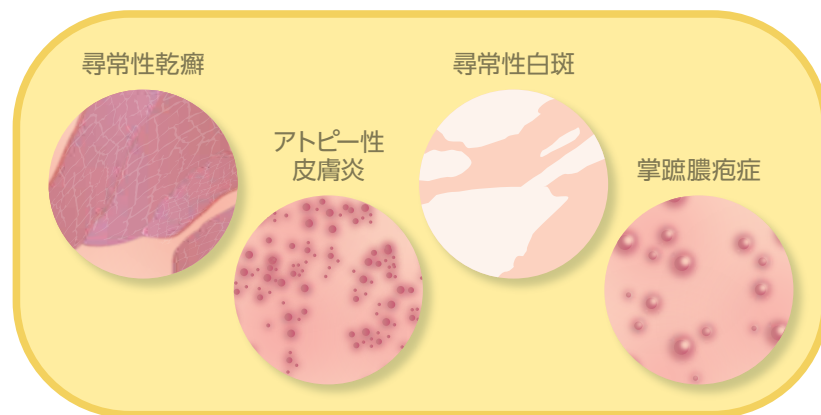
311nm

紫外線UVBの中の311nm(ナノメートル)を中心とした狭い範囲(ナローバンド)の波長の紫外線を用いて治療します。

# 保険診療が適用になります

乾癬、アトピー性皮膚炎、尋常性白斑、掌蹠膿疱症、類乾癬、菌状息肉腫(症)、悪性リンパ腫または慢性苔癬状秕糠疹の皮膚疾患に対して、保険診療が適用になります。

※円形脱毛症の場合は、保険が適用されません。



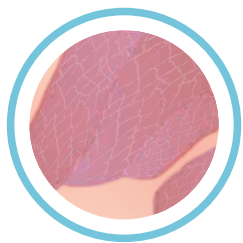
お気軽に  
ご相談ください



## 主な適応疾患

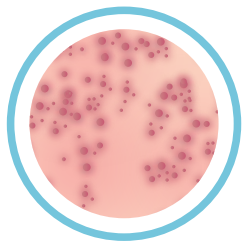
### 尋常性乾癬 ●じんじょうせいかんせん

赤くなった皮膚が盛り上がり、乾燥した皮膚の表面がポロポロとはがれ落ちる病気です。



### アトピー性皮膚炎

かゆみ、乾燥、皮膚の炎症を伴い、もともとアレルギーを起こしやすい体質の人や、皮膚のバリア機能が弱い人に多くみられる病気で、周期的に良くなったり、悪くなったりを繰り返します。



## 主な適応疾患

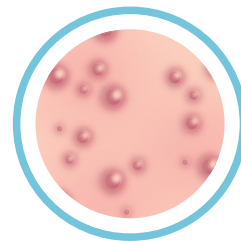
### 尋常性白斑 ●じんじょうせいはいくはん

皮膚の色が抜けて白い斑点ができる後天性の皮膚疾患です。斑点の大きさや形状はさまざまで、徐々に白斑が集まって広がることもあります。



### 掌蹠膿疱症 ●しょうせきのうほうしょう

手のひらや足の裏にうみが溜まった膿疱のうぼうと呼ばれる皮膚疹ひびんが数多くみられる病気で、周期的に良くなったり、悪くなったりを繰り返します。



# 光線治療の流れ

STEP

1

## 診察

症状や治療部位、肌の状態を診察します。

STEP

2

## テスト照射

治療を始める前に、患者さんに合った適正な照射量を決めるためのテスト照射を行います。24時間後の皮膚の反応を診るため翌日に来院していただく必要があります。(テスト照射をせずに少ない照射量から治療を開始する場合もあります。)

STEP

3

## 治療開始

テスト照射で適切な照射量が決まると治療が開始されます。照射量は徐々に増量し、適正な照射量で治療を行います。症状によって照射間隔や期間、回数は異なってきます。治療中は紫外線から目を保護するためにゴーグルを装着していただきます。

治療当日、翌日はできるだけ患部が直射日光など強い紫外線に当たらないようにしてください。

※医療機関によって治療の流れが異なる場合があります。

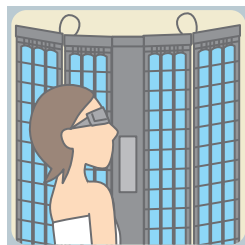
手足用 紫外線治療器

Mシリーズ



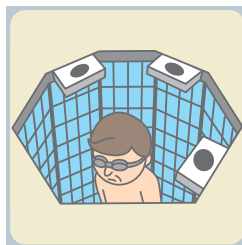
三面鏡型 紫外線治療器

7シリーズ



全身型 紫外線治療器

3シリーズ



# よくある質問

## Q1 痛みはありますか？

A1 痛みはありません。  
光が当たると温かく感じる場合があります。

## Q2 1回の治療時間はどのくらいですか？

A2 照射時間は通常数十秒から5分程度です。一度に照射できない場合は分けて照射を行います。

## Q3 治療回数はどのくらいですか？

A3 疾患の症状によって個人差があります。1週間に1回から3回の治療となりますが、軽快とともに照射間隔をあげたり、休止したりします。症状の寛解がみられた時点で治療は終了します。

## Q4 副作用はありますか？

A4 最も一般的な副作用は、紅斑(赤み)、水疱(水ぶくれ)等の症状ですが、照射量や治療回数の上限を守ることによって、安全で効果的な治療が可能です。

